

題名：当院で脳動脈瘤に対して開頭クリッピング術を受けた患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	レンズ核線条体動脈 (lenticulo-striate artery: LSA) の解剖学的バリエーションと前方循環脳動脈瘤手術手技の検討 (2024-1)
当院の研究責任者 (所属)	脳神経外科 大垣 福太郎
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	近年、脳動脈瘤治療においては脳血管内治療が拡がりを見せており、クリッピング術は減少の一途にあります。しかし、前方循環系脳動脈瘤に関しては、その局在や形態からクリッピング術の適応となる例が一定数存在します。 限られた症例数の中で手術手技習得が求められる昨今において、術者は確実な手技を安全に行うことが以前にも増して求められており、脳動脈瘤クリッピング術で主要な合併症である穿通枝障害を回避するべく、その解剖学的知識や穿通枝温存に配慮した手術手技の習得が求められます。
研究の方法 (利用する試料・情報)	2023年4月以降、当院で前方循環系脳動脈瘤に対してクリッピング術を行ったかたを対象とし、各患者さんの年齢、性別、LSAの分岐と走行(画像データ・手術ビデオ)、中大脳動脈の走行(画像データ・手術ビデオ)を後方視的に検討します。 (介入なし、後ろ向き観察研究) 研究実施期間：2024年4月～ 2027年3月
利用する試料・情報の 該当期間	2023年4月～ 今日現在まで
試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	予定はありません。

個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-811 メールアドレス：e103017f@yokohama-cu.ac.jp 担当者：大垣 福太郎（所属：脳神経外科）
備考	